

Q 14 小・中学校では，教育内容の厳選により，教える内容が3割も削減されるそうですが，この結果，子どもたちの学力が低下するなどの心配はないのでしょうか？

A 共通に学ぶ知識の量は従来と比べて減りますが，自分で学ぼうとする意欲や学び方をしっかり身に付けさせることにより，そのような心配はないようにしています。

右の表の調査結果からも分かるように，現在の小学生の約3割，中学生では約5割が学校の授業を半分以上理解できていないという現状があります。

これは，これまでの知識を一方向的に教え込む教育になりがちで，子どもたちが十分その内容を自分のものとして身に付けないまま，授業が先に進んでいくというようなことが大きな原因と考えられます。新しい学習指導要領では，教育内容を基礎・基本に厳選し，子どもたちがゆとりを持って学習し，その内容を確実に身に付けられるようにしました。小・中学校の教育内容については，例えば，算数・数学，理科などは，現行と比べて3割程度減らしています。

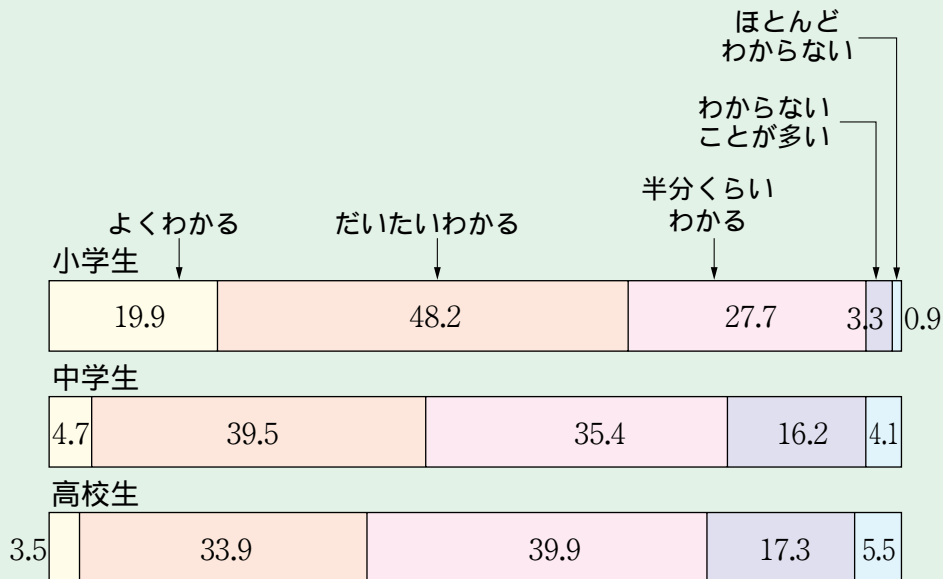
また，子どもたちが選択して学習できる幅をこれまで以上に拡大していますので，確実に身に付けた基礎・基本を基に，自分の興味・関心等に応じて，意欲的・主体的な学習がより活発に行われるようになります。

これにより，ゆとりを持って読み・書き・計算などの基礎的・基本的な内容をしっかり習得するようしたり，学ぶ意欲や学び方，知的好奇心・探究心を身に付けることによって，むしろ[生きる力]としての学力の質を向上させることができます。

子どもたちの学習状況を見ると、全体としてはおおむね良好ですが、多くの知識を詰め込む授業になっていること、ゆとりを持って学習できずに教育内容を十分理解できない子どもが少なくないことなどが指摘されています。

また、子どもたちの「学校の授業の理解度」を見ると、学年が上がるにつれて、理解度が低下しているという傾向が見られます。

【学校の授業の理解度】



文部省「学校教育に関する意識調査」（平成10年2月調査）